

家庭教育力の強化を図ろう

～ 子どもたちの健やかな成長を支える育友会活動 ～

西尾市立米津小学校育友会

1 学区及び学校の概要

愛知県西尾市米津町は、西尾市の中央を流れる矢作川の南端に位置し、豊かな自然と歴史・文化が融合した地域である。学区の北側には国道23号線、東側には名鉄西尾線が通り、名古屋方面からのアクセスも便利である。毎年8月15日には、水難者や戦没者の霊を慰める「西尾・米津の川まつり」が開催されている。約1,000個の万灯が川面に流され、約3,000発の花火が夜空を彩る幻想的な光景が広がる祭りである。学校の創立は1887年、今年で138年。本年度の児童数は404名（10月末現在）である。

2 研究のねらい

子どもたちが生活習慣や自立心、社会的マナーを身につけるうえで、家庭での教育は非常に重要な役割を果たすと考えている。近年、核家族化や都市化が進み、保護者が家庭教育について学ぶ機会が減少している。そこで、子どもたちが心身ともに健やかに成長することに向けて、家庭教育力を強化するためにできることは、家庭教育に関する情報の提供や研修、親子での活動機会の充実など、学校と家庭がつながりをもってPTA活動を進めていくことだと考えた。

3 研究の仮説

保護者が参加できるPTA活動の充実を図り、学校と家庭のつながりを強化しながら家庭教育を学ぶ機会を多く設けることができれば、家庭教育力の強化を図ることができるであろう。

4 研究の方法

米津小学校と米津小学校PTA（育友会）が連携し、学校の年間行事の中に、保護者参加の研修や行事などを計画的に位置づけて活動する。

5 研究の実践

（1）学校保健委員会

ア 中学校区学校保健委員会（令和6年度実施）

プロなわとびプレイヤーの黒野寛馬氏を講師に迎え、『校区で育む 子どものからだ・こころ・いのち』というテーマで、子どもの心と体をなわとび1本で健康にする方法を、お話と実際の動きとともに教えていただいた。家庭でも簡単に取り組むことができる身近にあるなわとびを利用して、家族一緒になって体を動かすことで、心身ともに健康に過ごすことができることを知ることができた。

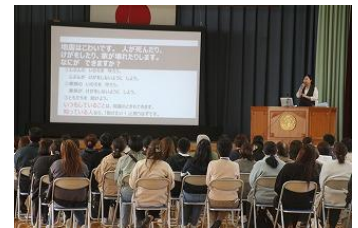
イ 校内学校保健委員会（令和7年度実施）

今年度は、睡眠の大切さを学ぶことにより、自分の生活について見直し、改善できるようにす

るために、上級睡眠指導士の丹羽てる美先生を講師としてお迎えし、『すいみんのチカラ！』というテーマでご講演していただいた。タブレット、スマートフォンなどのメディア機器の普及により、子どもの所持率も年々増加している。それに伴い、長時間にわたる機器操作や夜ふかしなど、生活習慣の乱れが見られる。睡眠時間や質の向上が、子どもの生活にいい影響があることを、具体的な数値や事例を交えて教えてくださった。すぐに家庭で取り入れられることも多く、学びの多い時間となった。

（２）教育講演会

年１回、２学期に、育友会主催で保護者向けに教育講演会を開催している。昨年度は、防災マカきつばたの防災士である出口志穂氏に、今年度は、西尾市役所危機管理課の齊藤寛憲氏と新家晶子氏に、それぞれ防災教育についてのご講演をしていただいた。出口氏からは、災害が起こる前に家庭の備えとして何から始めたらいいいのかをわかりやすく、丁寧に教えていただいた。齊藤氏と新家氏からは、災害に対する備えと災害が起こった後の行動について、最新の情報を踏まえてお話いただいた。家庭だけでなく、地域と連携することの必要性を感じた。子どもとともに家庭でできることを考え、実践しようとするよいきっかけを与えていただいた。



（３）奉仕活動

年１回、９月下旬に、秋に開催する運動会に向けて、奉仕活動として、親子で学校の草取りなどの整備活動を行っている。親子と教師と一緒に草取りなどを行うことで、子どもたちに学校を大切に思う気持ちや感謝の気持ちが育つ。保護者にとっては、子どもたちの学校での様子を知るよい機会になっている。

６ 研究の考察

育友会の役員・委員の方を中心に、保護者の方々とともに、学校行事への参加やお手伝いをはじめ、さまざまな活動を行った。研修的な内容の講演会を設定したり、子どもたちと一緒に活動をしていただいたりしたことで、学校と家庭がつながる機会をもち、少しでも家庭教育力を高められたと考える。

７ 成果と今後の課題

学校行事などに積極的に参加することで、家庭では見せないような学校での子どもたちの様子を知ることができた。心身ともに健康に生活するための方法や災害に備えるために各家庭で取り組めることなどを学ぶ機会を通して、子どもたちとより一層のコミュニケーションを図り、家庭教育力を高めることの重要性を感じることができた。子どもたちのためにできることを工夫して取り組もうと、育友会の役員・委員が知恵を出し合い協力してきたことと、その中で、それぞれの活動内容を見直したり、改善したりして、来年度以降も持続可能な取り組みになるように進められたことは、大きな成果と言える。学校と家庭がともに「心身ともに健やかな子どもを育てる」という共通認識のもと、さまざまな機会を捉えて家庭教育力の向上のために、ともに活動していくことの重要性を再認識することができた。育友会活動が魅力あるものになるように、活動内容を精選、改善し、参加者がさらに増加する活動にすることが今後の課題である。